

新型コロナウイルス感染症拡大のため、集合型会議をとりやめ、校長から各委員への電話による意見聴取をおこない、今年度の学校運営協議会の集約とした。

意見聴取の実施日時：令和3年3月1日(月)～3月15日(月)

実施場所：電話による意見聴取。長田委員のみ来校による意見聴取。

意見聴取を行った学校運営協議会委員 (五十音順)

足立委員、長田委員、塩見委員、田中委員、中山委員、長森委員

議事：

1. 学校経営計画に係る事項

- (1) 令和2年度の学校評価について
- (2) 各分掌・学年の今年度の総括について
- (3) 令和3年度の中期的目標について

2. 教員の授業その他の教育活動に関わる保護者からの意見の調査審議に関わる事項

3. その他、校長が必要と認める事項

<令和2年度の各分掌・学年の総括と学校評価について> (各担当者から)

- ・インターネットに関するアンケートの実施。「SNSトレーニング」を6月9日に開催。OSAKA スマホサミット2020に参加。優秀賞を受賞。オンライン授業のシステムを構築中。(首席)
- ・SNS等のトラブルの危険性について周知。交通安全講習会を茨木ドライビングスクールの協力を得て実施。自転車通学のマナー向上をめざす。(首席・生徒指導)
- ・新型コロナ対応、考査規定及び成績確認の手順の改変。新カリキュラムの作成と観点別評価に向けての校内体制の整理。(教務)
- ・進路ガイダンスの充実。学校斡旋の民間企業への就職試験受験者29名、公務員1名。全員内定。奨学金関係は府全体の休校措置のため予定急変が多く対応に迫られた。(進路指導)
- ・心と身体の健康に留意した新型コロナウイルス感染症対策の徹底。防災訓練実施に備え、日本赤十字社と連携を開始し防災教室を開催できた。(保健)
- ・部活動の活性化については、入部率は55%で年度内退部率も抑制できた。各行事については委員会を中心に、部活動の生徒たちも協力しよく頑張ってくれた。(生徒会)。
- ・人権教育は計画通りの実行ができ、学校説明会も感染対策を徹底して少人数で2部制にするなど、中学生に情報提供ができた。緊急連絡のツールとして新たにGoogle classroomの活用を進めている。(人権ネットワーク部)
- ・ルミナス(共生推進教室)の生徒は学校生活を楽しんでいる。就労についての意識が芽生え、進路実現に向けて実習に取り組んでいる。(共生推進教室)
- ・進学講習は進学準備クラスに加えて33名が受講している。次年度の専門コースへの希望者は

学年の半数以上の160名となり、進学希望が増加した。「凡事徹底」を学年全体で指導している。部活動への入部も継続的に進んでいる。(1年生)

- ・朝学(新聞の読解)や進学講習、寺子屋(補習)などの学力定着に向けた取組は順調である。個別の支援計画も作成し生徒支援に活用している。挨拶指導は継続中である。(2年生)
- ・専門コース制になって初の卒業生となる。進学については一般入試まで頑張る生徒も多く、成果をあげている。就職についても全員内定を得るなど全体として希望進路実現の成果がよく出ている。(3年生)

<令和2年度学校評価について> (校長)

- ・進路実現をはかる学力の育成では、学校教育自己診断アンケートの「授業に工夫をしている」「進路別満足度」をもとに進学講習を定着させることができた。
- ・豊かな人間性と社会で生き抜く力の育成では、相談支援委員会を中心にスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携して、まずはコロナ禍による生徒の心のケアを大切にすることから取り組んだ。
- ・共生推進教室の取り組みでは、実習先の確保をはじめ全員内定を得ることができた。
- ・校内組織改革では、分掌再編を行い新規の企画部の立ち上げや、生活指導や特別活動を生徒部として集約し機能的に活動できる柔軟な枠組みを設定できた。

<各委員から>

- ・現在の学生(生徒)の特徴として「長期目標を立てることができない」ことがある。長期目標を立てるためには自己調整能力が必要であるが、そこに至るまで辛抱できない。物事が早く展開することに慣れすぎている。手紙よりメール、メールよりラインというように瞬時に答えが出て喜びが感じられないとやめてしまう。「わかる」という喜びはその辛抱の向こう側にある。この力を育成するために、学校行事の実施が重要である。長期計画を立てるなかでメタ認知(自分に対する認知)が育っていく。もう一度自分を見直したり振り返る力を育てるため行事の重要性をしっかりと伝えてほしい。
- ・進路別満足度が94%と高くなっているのは、非常にすばらしくご指導の賜物である。また、保護者(PTA)と学校との連携については新型コロナウイルス感染症の影響で判断しづらいが交流はよくやってもらっている。文化祭でも生徒の活動を見る機会ができ、PTAとして審査などに参画できたのは良かったと思う。
- ・専門コースの授業を担当しており、新型コロナウイルス感染症の影響で海外との交流はSNSや手紙を通じて行うことができた。専門コースの生徒たちも熱心に取り組みコースの特色が理解されその効果が発揮された結果である。横のリンクもよくできており、リモートなどの活用もしっかりとできていた。
- ・地域の活性化について、ふるさと祭りでの部活の出し物、店の手伝い、中学生との交流、青少年会との連携も良くしていただいている。なにより、気仙沼高校との長期にわたる連携も続けていただきたい。高校とは防犯・防災の点でさらに連携を進めていきたい。防災マニュアル、避難所マップの協働作成や子ども安全見守り隊で、朝の見守りだけでなく下校時の見守りへの協力もお願いしたい。

- ・人権関係で実施いただいているSNSのネットトラブル予防の研修は必要であり、大切なことだと思う。OSAKA スマホサミットでの優秀賞も具体的にどんな内容を発表されたのか知りたい。次に、生徒指導部の制服について良い取組みをされていて、LGBTQの生徒への柔軟な対応をされていると思う。また、生徒会の取組みでは執行部の活性化が図られている。新聞の発行もされているようなので読んでみたい。部活動に入らない生徒については、生徒同士が誘い合うなどの行動に移すことが大切。気づきあうことの大切さや互いのコミュニケーションを深めることで生徒会活動が活発になっていくと考える。

最後に個別の支援計画を20名作成されているだけでなく、支援が必要だと気づいた時に支援をしていただいている。大勢の中の1人ではなく、1人ひとり大切にしてもらっている。話を聞いてもらう先生と生徒の安心感をもった関係性を感じることができる。話を聞いてもらえる先生がいるのは大変良いと思う。

- ・全体の評価として、学校の取組みは十分プラスの評価です。学校教育自己診断の項目において、「教え方に工夫をしている先生が多い」が+12p、「授業でわからないことについて、先生に質問しやすい」が+10p、「先生は生徒のプライバシーや他の人に知られたくない秘密を守ってくれると思う」が+12p、さらに「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」に関しては、70%となるなど高い数字を示している。中学校ではこの数字が低いので課題として指摘されていることを考慮すれば、生徒と先生の信頼関係がしっかりできていることの表れだと言える。

また、コミュニケーションの活性化をめざし、現状に応じた変革として大職員室にしているのが大変いい。これらの評価をぜひ返して欲しい。

<令和3年度の学校経営計画の中期的目標の承認について> (校長)

- ・令和2年度の学校経営計画を継承し学校経営推進事業の支援校として「心を鍛えるつばさチャレンジ」を掲げ、生徒の自己肯定感を高める多様な取組みを中心に学校運営を行う。
- ・多様な進路ニーズに応えるため専門コースや総合系の授業を充実。
- ・生徒の自己肯定感の育成を進めるため、教育相談体制のさらなる充実。
- ・安全、安心な居場所である学校づくりのための部活動の活性化。
- ・令和5年度まで、共生推進教室の生徒の進路決定率100%。
- ・チーム学校として機能させるため、活発な双方向のコミュニケーションによる人材育成。

<その他 校長が必要と認める事項について>

- ・新型コロナウイルス感染症の影響でPTAをはじめ他機関との連携に多くの制限がかかり、当初の計画から急な変更が余儀なくされた。次年度も学校として、できるだけ教育活動を保障していけるよう努力していきたい。

<令和3年度学校経営計画 中期的目標について>

各委員から令和3年度の学校経営計画の中期的目標を承認いただいた。